

また、北海道ポールパークとの連携による周遊イベントへの参加や地域PRブースへの出店を通して、多くの観光客の誘引と町内周遊や長時間滞在を推進し、交流人口の増加と観光消費額の増加に努めてまいります。

▼企業誘致

これまで本町では、道内主要都市を結ぶ陸上交通の要衝であるという地理的優位性がありながらも、企業立地に繋がられていない状況にありました。しかし、道央圏連絡道路の南長沼ランプまでの開通に伴い、本町の地理的優位性、潜在力が改めて注目され、近年は多くの民間施設の開業がなされております。引き続き、本町が持つポテンシャルを最大限發揮できるような遊休町有地の活用方法の検討を

行い、誘致を進めるとともに、工業団地につきましても、未利用地解消のため、地権者に対し活用予定などのヒアリング等を行ったうえで、進出希望企業とのマッチングに努めるとともに、地域経済の牽引や社会課題解決をするローカルスタートアップに対しても支援してまいります。

▼雇用対策

町内の学校やハローワークとの連携を図り、長沼町無料職業紹介事業も連動させながら、雇用機会の創出及び雇用の確保を進めてまいります。また、地域の関係機関が連携した「南空知通年雇用促進協議会」等を活用し、雇用に関する情報収集、意見交換等を行ってまいります。

基本政策5

多様なひとと文化を

育むまち

子どもの社会性・人間性を育てるとともに、誰もが心豊かで生きがいをもてるまちづくりを推進します。

▼生涯学習の充実

「学び、行動し、成果を分かち合うまちづくり」を基本

くりを進めてまいります。

▼文化の振興

子どもたちをはじめ町民が本町の文化や歴史に興味・関心を抱き、郷土愛がかん養されるよう、学習機会等の充実に努めてまいります。

また、町民の文化活動を支援し、豊かな地域社会づくりにつながるよう、引き続き各文化団体を支援してまいります。

埋蔵文化財は本町の大切な財産であり、損なわれることのないよう関係機関と連携し、保存・保護に努めるとともに、動画等の配信などを利用したデジタル郷土資料館の充実に努めてまいります。

基本政策6

健全な行財政運営で

活気あふれるまち

行財政基盤の安定した、町民と行政の協働で築く魅力あるまちづくりを進めます。

▼行財政活動の推進

町民の声を広聴し町政に反映させるため、「オープンミーティング」や「行政区・団体要望」、「出前講座」などを通じて、町民と行政との情報共有及びコミュニケーションを進めます。



オープンミーティングの様子

シヨンの促進を図り、「町民の声を生かして創る」まちづくりを推進してまいります。あわせて、町内への進出企業やさつばろ連携中枢都市圏におけるまちづくりパートナー協定企業など、多くの企業・団体との連携を深め「官民連携によるまちづくり」の拡大、充実に取り組めます。さらに、町のブランド力と地域力を向上させ、活力あふれるまちづくりを実現するため、移住促進、観光振興、企業誘致、子育て支援、ふるさと応援寄附など行政の様々な取り組みに加えて、町民や町内事業者による特色ある取り組みも含めた、横断的かつ総合的なプロモーションを展開することで、町の魅力を効率的・効果的に発信してまいります。

理念とし、個人の学びから一歩踏み出し、学びの成果が学校教育や社会、地域などにおいて行われる多様な学習活動に生かされるよう、「第3期長沼町生涯学習推進計画後期基本計画」に基づき生涯学習を推進してまいります。

▼教育の振興

生涯学習の基本理念に基づき「ながぬまっ子」を育む教育環境の整備を行ってまいります。

また、教育振興に関する施策につきましては、町と教育委員会で組織される「総合教育会議」において、協議・調整を行い、共通認識に基づき、総合的かつ計画的な推進を図ってまいります。

▼学校教育の充実

「確かな学力」、「豊かな心」と「健やかな体」を育み、「生きる力」を身に付けられるよう、9年間の見通しを持った教育活動の充実を図ってまいります。

また、来年度の「長沼学園」の開校に向け、本年度は校舎移転計画の策定や購入備品の検討を行うほか、開校準備委員会における協議の一層の充実を図るなど、児童生徒の学びと成長を支える教育

基本政策7

ひとが集まり

持続可能なまち

多様なひとが集い、まちの課題をともに考え、未来へ繋ぐ持続可能なまちづくりを進めます。

▼コミュニティ活動の促進

まちの活性化とにぎわいの創出に取り組む団体を支援する「ながぬま創生町民提案プロジェクト支援事業」を継続し、まちづくりに持続的に寄与する地域人材、活動主体の成長を促し、町民主役のまちづくりを推進してまいります。

▼人材の育成・

地域間交流の推進

本年度も豊かな国際感覚を身につけ国際社会で貢献できる人材育成を目指す、中学生海外派遣事業及び国内外研修事業を継続します。

タンチョウも住めるまちづくりにおいては、鶴居村との子ども交流事業に継続して取り組み、地域間交流を通じて歴史や文化に対する知見を深めるとともに、ひとと自然が共生するまちづくりの浸透、未来に引き継ぐ人材育成につなげてまいります。

環境の実現を目指し、取り組みを進めてまいります。学校給食では、厳しい衛生管理に基づき、安全で安心な給食の提供に努めるとともに、生産者団体等と連携した地元食材の地産地消を、引き続き進めてまいります。

▼高等学校に対する支援

また、本年4月より国の学校給食費の「給食費負担軽減交付金」を活用し、町立小学校においては、学校給食費の無償化を、町内公立学校においては、保護者負担の軽減を図ってまいります。

▼高等学校に対する支援

生徒に選ばれる魅力ある高校づくりを期待しており、2間口の定員堅持を目的とし、進学・就職を支援するため各種検定料や学校案内用パンフレット作成費の助成をするとともに、特色ある学校づくりへの支援を引き続き行なってまいります。

▼社会教育の充実

学校・家庭・地域が連携して豊かな人間性・社会性を身につけた次代を担う青少年の健全育成に努めてまいります。また、必要な知識や技術を習得し、地域づくりの実践につながるよう、生涯各期の学習機会を提供

また、地域おこし協力隊の取り組みを強化・拡充し、様々な分野で活躍できる隊員を迎え入れ、隊員の持つ知識・行動力が地域活性化の新たな推進力となるよう取り組んでまいります。

さらに、ワーケーション推進事業を通じて、参加企業による町の課題解決や活性化に資する提案・実証を促すとともに、サテライトオフィスの誘致やローカルスタートアップの創出に取り組み、都市部から地方への人の流れの増大や関係人口の創出拡大に努め、地域活性化を図ってまいります。

加えて、仕事と育児・介護との両立、または閑散期などにおいて、働きたい時間に合わせて自宅等で働けるようデジタル技術を活用した在宅ワークに関するリスキリングセミナーを開催し、柔軟な働き方を希望する人の選択肢が広がるよう取り組んでまいります。

▼魅力的な地域圏の形成

人口減少下で、複雑化かつ高度化していく地域課題に対応していくため、「さつばろ連携中枢都市圏」や「南空知定住自立圏」、「オール北海道ポールパーク連携協

してまいります。図書館につきましては、公共施設の中で、町民が気軽に足を運ぶことのできる社会教育施設であり、生涯学習の情報発信拠点として、幅広い年代の方が地域の文化に触れられるよう、町民が利用しやすい読書環境づくりに努めてまいります。

▼社会体育の充実

「長沼町スポーツ推進計画」に基づき、家庭、学校、地域が連携して、子どもの体力、運動能力向上に努めてまいります。

また、少子化が進む中、将来にわたり児童・生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、学校部活動の地域展開について、運営主体となる団体や指導者の掘り起こしなどの支援・協力を行い、持続可能な活動の場所づくりに取り組んでまいります。

さらに、長沼町スポーツ推進委員会や各スポーツ団体と連携し、町民のニーズに応じた各種大会の開催やスポーツ教室などの交流を推進するとともに、中学生以下の北長沼スキー場リフト使用料無料化を継続し、気軽に冬季スポーツに親しめる環境づく

議会」などの広域的な連携も進めながら、将来にわたって活力を維持していく施策を積極的に取り組み、町民や関係機関が一体となって持続可能なまちづくりを推進してまいります。

◎以上、令和8年度における、私の町政執行に関する所信と基本的な方針について申し上げますが、引き続き行財政の簡素化、効率化を図るとともに、透明性、自浄性を確保し、自らの行政能力の向上に努め、住民福祉の向上のために責任ある行財政運営に努めてまいります。

私は、町の目指す姿を「ひとと自然の共生 きらめく田園と交流のまち ながぬま」と掲げ、産業振興や企業誘致、移住定住の促進など、人口減少を抑える「人口の安定化」対策を積極的に行い、いつまでも安心して住み続けられる豊かなまちづくりを目指し、全力を傾注してまいります。決意であります。

今後とも、町議会議員各位をはじめ町民皆様のより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。施政方針とします。